氏名	棚橋　訓 TANAHASHI Satoshi
所属	人間文化創成科学研究科人間科学系
職名	教授
学位	文学修士（1984年3月、慶應義塾大学）／M.A. in History, Keio University, 1984.
専門分野	文化人類学、社会人類学、歴史人類学、オセアニア地域研究、ジェンダー・セクシュアリティ研究／Soc
URL	
E-mail	tanahashi.satoshi@ocha.ac.jp

研究者キーワード / Keywords

文化人類学
歴史人類学
オセアニア地域研究
ジェンダー／セクシュアリティ研究
文化景観論

Cultural Anthropology
Historical Anthropology
Oceanic Studies
Gender and Sexuality Studies
Cultural Landscape Studies

主要業績

棚橋　訓、「植民地主義との邂逅」、片山一道・熊谷圭知（編）『朝倉世界地理講座?大地と人間の物語?第15巻オセアニア』、東京：朝倉書店、pp.132-146.

棚橋　訓、「非婚の選択?ポリネシアのクック諸島マオリ流」、椎野若菜（編）『「シングル」で生きる?人類学者のフィールドから』、東京：御茶の水書房、pp.155-167.

Satoshi Tanahashi,"Erasion, Forgetting and Re-articulations,"Session 31: Japan and the Pacific Islands: Former Legacies and New Articulations, the Fourteenth Asian Studies Conference Japan, Graduate School of Asia-Pacific Studies, Waseda University, Tokyo, Japan, June 20, 2010.

Satoshi Tanahahsi, "Ochanomizu University and Gender Education: A Case Study Conerning its Past, Present and Future,"Session 2-2: Dialogues on Gender and Sexuality Education at University, Asian Gender Dialogues: Education on Gender and Sexuality in Asia, The Center for Gender Studies, International Christian University, Mitaka, Tokyo, November 21, 2010.

研究内容 / Research Pursuits

2010年度は科学研究費補助金の研究分担者として「サンゴ礁?人間共生系の景観史」(新学術領域研究（研究領域提案型）の１件、環境省地球環境研究総合推進費(全球システム変動分野)の研究分担者として「環礁上に成立する小島嶼国の地形変化と水資源変化に対する適応策に関する研究」の１件、計２件の資金を得て、マーシャル諸島、ツバル、キリバス、八重山諸島石垣島に関する調査研究を実施した。また、東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所、国立民族学博物館の共同研究員として２件の共同研究に携わった。

During the academic year of 2010, I conducted researches on Marshall Islands, Tuvalu, Kiribati and Ishigaki of Yaeyama Islands with JSPS and Japanese Ministry of Environment grants. Research topics under the grants were as follows: (1) Landscape History

教育内容 / Educational Pursuits

学部において「文化人類学(基礎講義)」「ジェンダーLA科目」「人間と発達」「教育科学研究指導?・?」「文化人類学概論」「民族誌学演習」等の授業を、大学院において「ジェンダー文化論」「ジェンダー文化論演習」「開発・ジェンダー論特論」「比較文化ジェンダー論演習」等の授業と研究論文指導を実施した。また、放送大学客員教授、慶應義塾大学・聖心女子大学等の非常勤講師として文化人類学分野の教育と研究指導を実施した。

For the academic year of 2010, I gave the lectures, seminars, directed-reading courses for both undergraduate and graduate programs at Ochanomizu University. List of the courses I offered were as follows: Cultural Anthropology, Culture and Environment, I

研究計画

2007年度から、サンゴ礁学、自然地理学、地形学、考古学、形質人類学、海洋生態学、海洋工学、リモートセンシングの各分野の研究者との共同によるオセアニア環礁の地球温暖化適応策の総合的研究を開始した。2008年度から文部科学書科研費（新学術領域研究）「サンゴ礁学」にも参画して当該分野での次世代の育成にも取り組んでいる。今後は、文化人類学の立場から、オセアニア島嶼諸国や国内小島嶼域の環境変動対策と国土保全・景観分析の分野での実戦的な適応策をめぐる政策提言を視野に入れた、地球貢献型の研究を一層推進していく計画である。また、ジェンダー・セクシュアリティ研究においては、公衆衛生学、疫学、社会学の各専門分野の研究者たちとの連携を視野に入れた総合的な研究枠組の検討を行い、文化人類学の新たな実戦的貢献の可能性を切り拓きたいと考えている。

メッセージ

私は文化人類学の視点と方法から現代世界の様々な問題群を実証的に分析・理解して、その成果を現代社会に還元することを目指して研究を続けています。フィールドワーク（現地での実態調査）によって人間の多様性をこまやかに捉えつつ、その背後にある普遍的課題に目を向けていくのが文化人類学という分野の特徴です。文化人類学では「多様性に向き合う眼」と世界をつなぐ「外向と共生の思考」を核に、研究を進めていきます。多くの受験生のかたがたにとって、文化人類学は、あまり耳にしたことのない未知の分野だと思いますが、お茶大に入学の際には、是非ともこの未知の分野に積極的に分け入り、現代世界を見る新たな眼（芽）を手に入れて頂きたいと思います。